

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	廃棄物処理施設周辺整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	1	○
政策	人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	環境保全の促進	担当課室長	中川 聡			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	廃棄物処理施設周辺整備計画に基づき、構成市として組合に協力する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺整備実施計画に基づき、引き続き構成市として組合に協力する。
②①に基づく取組み結果	廃棄物処理施設周辺整備実施計画に係る協議を構成市及び組合と行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	廃棄物処理施設周辺環境を確保する。
②事務事業の概要	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合が定める廃棄物処理施設周辺整備基本計画及び鎌ヶ谷市との市境にある柏市道の整備に対する周辺整備事業の実施に必要な経費を負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	廃棄物処理施設が立地する地域の環境向上に向けた取り組みである周辺整備事業は、これまで進捗が遅れてきた経緯があるため、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合の新たな廃棄物処理施設周辺整備基本計画については、着実に実行していくことが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合が行う廃棄物処理施設周辺整備事業と同組合の構成市である柏市が行った市道整備の費用の一部をに対し環境整備費負担金として支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	しらすごみ搬入量	30,666	31,086	31,141	t	業務取得
	ii	し尿浄化槽汚泥搬入量	18,694	19,753	18,964	t	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	11,272	29,122	金額(千円)		内容	7,459	
国支出金(千円)			9,256		柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合負担金(周辺整備費分)		
県支出金(千円)			19,866		環境整備負担金		
市債その他(千円)		17,800					
一般財源(千円)	11,272	11,322				7,459	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	事業の進捗にあたっては、実施計画に基づく着実な進捗が求められているため年度間の調整が必要となる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	補助制度の活用など、効率的な実施を検討していく必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	負担金	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	負担金	31,806	31,806	当初	9,256	29,122	R1からの繰越	19,866
				R1⇒R2繰越	22,550		現年分	
③達成状況	完了							
④未完了・非着手の理由								
	令和3年度への繰越額(単位:千円)						0	

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	生活排水対策に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	3	
政策	人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	環境課			
施策	環境保全の促進	担当課室長	市村 昌子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	水質改善を図るため、水質調査や水質浄化の啓発活動を行う。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	水質改善を図るため、水質調査や水質浄化の啓発活動を行う。
②①に基づく取組み結果	生活排水浄化対策の取り組み、啓発活動を実施した結果、手賀沼、印旛沼の水質は、ほぼ横ばいで推移している。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内主要河川(6河川):大津川、金山落、井草水路、中沢川、二和川、大柏川	意図(対象をどうするのか)	河川水質の監視
②事務事業の概要	水質を保全するため、水質調査や浄化対策を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	本市は手賀沼、印旛沼、真間川流域の最上流部にあたり、水質汚濁の防止に取り組む必要がある。大津川、井草水路においては、若干水質の改善がみられるが、さらなる水質改善を目指し、鎌ヶ谷市生活排水推進計画に基づき、施設整備及び水質汚濁の防止を啓発するとともに、公共用水域の水質監視体制に取り組んでいく。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	市内公共用水域水質検査結果(別添)						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	大津川BOD値	7.5	5.3	5.0	mg/l	
	ii	井草水路BOD値	10.1	5.7	5.3	mg/l	
	iii	真間川水域BOD値	7.8	8.9	6.4	mg/l	
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	2,378	4,027	金額(千円)			2,602	
国支出金(千円)			1,372			公共用水域・家庭雑排水共同処理施設 水質調査手数料	
県支出金(千円)			582			家庭雑排水共同処理施設 保守点検委託	
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,378	4,027				2,602	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	更なる水質改善を図っていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	手賀沼、印旛沼、真間川流域の最上流部に位置しているため、水質調査の継続実施・監視に取り組む必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)				

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	大気汚染・騒音・振動防止対策の推進に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	1	3	
政策	人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	環境課			
施策	環境保全の促進	担当課室長	市村 昌子			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	引き続き、下総航空基地の騒音実態調査や主要幹線道路の自動車騒音監視業務を実施する。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	下総航空基地の騒音実態調査や主要幹線道路の自動車騒音監視業務を実施する。
②①に基づく取組み結果	ホームページへの掲載及び窓口対応等で周知を行い、市民生活の安全・安心を図り、生活環境保全についての理解を得る。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	各世帯	意図(対象をどうするのか)	市民が静穏で快適な生活を送れるようにする。
②事務事業の概要	国が示す環境基準に達しているか、毎年下総航空基地や自動車騒音常時監視業務測定等を実施し、大気・騒音・振動等に係る評価・指導・改善要求を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	関係法令により事業が定められている。環境基準や規制基準が制定当時に比べると、各種公害を取り巻く環境や住民意識も変化している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	環境の概況(別添・抜粋・速報値)						
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	単位	算定根拠
	i	相談件数	109	100	70	件	
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算	
事業費(千円)	2,551	2,453	金額(千円)	内容		2,535	
国支出金(千円)			1,507	航空機騒音実態調査業務委託			
県支出金(千円)			638	自動車騒音・面的評価業務委託			
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	2,551	2,453				2,535	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	測定結果の活用方法について検討する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	法令等により市に義務付けられた業務であるため、下総航空基地や主要幹線道路による公害状況を今後も長期にわたって測定結果を注視していく必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	令和3年度への繰越額(単位:千円)					